

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2292100043		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム富士宮		
所在地	静岡県富士宮市佐折840		
自己評価作成日	平成23年1月9日	評価結果市町村受理日	平成23年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [igo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=22921](http://igo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=22921)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県静岡市駿河区馬淵2-14-36-402		
訪問調査日	平成23年2月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「入居者が毎日を心から笑顔で暮らせる為に」をホームの目標として、日々努力しています。自然に恵まれた立地条件を活かし、屋外へ自由に出入られるよう、アセスメントと見守りに力を入れ、安全を確保した上でストレス無く生活できる環境づくりを心掛けています。季節の行事や畑の作業など、入居者が主体的に活動できる機会を多く持てるよう、意識して取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

豊かな自然に触れ合う機会を持ち、ゆったりとした気持ちで過ごすことができるという特性を持つ事業所である。一方で田舎の中にあり閉鎖的になりがちのため、管理者は自ら近所へあいさつに回り日々顔を合わせることを心がけ、地域の奉仕活動や防災訓練に参加し、良好な関係を構築してきた。その結果、現在は近隣の農家から米を分けてもらったりスーパーで牛乳を配達してくれたり地域性を活かしたつきあいが実現できている。昔ながらの行事を大切に、年末にはそば打ちをしたり節分には恵方巻きを作るなど季節を感じてもらえるようにしている。昨年は大幅に職員の入れ替えがあり、勤務体制の見直しやスキルの底上げに向けて取り組みを始めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や朝礼の時に、理念を唱和し確認をして、実践へつなげています。	「その人らしさ」を大切にするため、利用者が何を必要とし、何を支援したらよいか理解するよう努めている。法人理念に基づいたホームの目標を持っているが、新たに職員で話し合い目標を作ることも検討中である。	大幅な職員の入替えもあったので、新たなホーム目標の作成による職員の意識統一を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加させていただいている。入居者が散歩中に地域の方たちと話しをするなど、日常的に交流している。	奉仕活動や防災訓練に参加している。文化祭ではアートセラピーの作品50点余りを出展している。春・秋に開催する事業所祭りについてはポスターを地域へ配布し、多くの方に足を運んでもらっている。	小学生との交流を継続的に行えるよう期待したい。また保育園児との交流も検討しているとのため、交流の幅が広がることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や又、新たな方法での理解や支援の方法を考えていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では活動報告を必ず行っている。参加していただいた皆様からサービスについての意見も聞けるようになってきている。	地域の情報を区長が伝えてくれる。間伐材を利用したベンチ作りや避難訓練と運営推進会議の合同開催などの提案をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で話し合いの場を設け、協力いただけるよう相談やご意見を伺っている。	市の担当者へ運営推進会議の案内・報告書を直接渡している。会議に毎回参加してもらっている。相談なども気兼ねなくできている。GH部会への参加など包括との連携も取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議で個々のADLを確認し、入居者様が自由に生活できるよう努めている。また言葉の抑制も確認をし、注意している。	研修を行い、身体拘束についての理解を深めている。10分間隔での安全確認や禁句集を用いて言葉遣いの再確認をする等、身体拘束をしないケアに向けた実践を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないように徹底しているが、もっと理解が必要なので、学ぶ機会を増やしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ具体的な取り組みが出来ていない為、今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を作りお話やご説明出来る様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などにご家族様と話し、意見や要望を伺い、スタッフ間で情報を共有し対応している。	毎月の手書きのお便りで利用者の具体的な様子を伝えたり、スタッフの名前と写真を一覧表にするなど家族からの意見に基づき工夫を心がけている。行事と家族会を同日で行うことで家族の参加を増やしたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議で、スタッフの意見を聞き話し合っている。	個人面談を年1回行っている。意見や提案についてまず実行し、その中で改善点を見出している。親睦を深める機会を持ち、職員が意見を言いやすくなるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場を目指す事に努めていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を大切にし、個別の課題に合ったものを進められるようにしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームが集まる勉強会に参加したり、行事に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の行動や要望などの情報をスタッフ間で共有し、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望を伺い、希望に沿えるよう信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援がしっかりと受けれる様に、本人あるいは家族の要望に十分耳を傾け対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が出来る事をスタッフと一緒にいたり、話に耳を傾け、共に生活していく関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様から家族の話をついたり、毎月ご様子をご家族様へ手紙を書いてお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人、知人の面会が途切れないように心掛けると共に、可能な方は外出や外泊を勧めている。	家族との関係を継続できるよう、可能な限り外泊の支援体制を整えている。退職した職員が近隣在住のため散歩がてら立ち寄ることもあり、馴染みの関係が継続できていると言える。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者個々の把握をした上で、共同生活をする理解を得て、良い関係作りができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応・相談に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様とコミュニケーションを重ね、ご本人様の言葉や希望を把握し、意向に沿えるようユニット会議で検討している。	担当者が主に利用者に関わりを持ち、日頃の会話から思いを把握するよう努めている。アセスメントは3ヶ月毎取り直している。その結果落ち着きを取り戻し、外泊もできるようになった利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで確認し、必要な時にはご家族様にも今までの生活歴や暮らし方を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態の変化を把握し、その日その時に合った生活が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議で話し合いの場を設けている。スタッフ全員でその人がより良く生活できる為のアイデアを出し合い、ご家族様の要望も取り入れて計画を作成している。	モニタリングは担当者が行っている。サービス内容実施記録により達成度が把握でき、プランの見直しにもつながっている。気づきシートを基にユニット会議で話し合い、計画作成者がプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入して日々の生活を把握し、スタッフ間で情報を共有、見直しと実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のサービスが提供出来るよう心掛けている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム周辺の環境を活かし、安全に散歩出来るようにしている。また地域の方との会話や、理解をいただいている関わりがある。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続しておられる方もいらっしゃる。必ず希望のかかりつけ医に診て頂くことができるよう相談し充分話し合い支援している。	希望のかかりつけ医が継続できるよう支援している。ケアマネが看護師を兼務しており、医療機関との連携がスムーズである。受診記録は申し送りノートにて薬の変化等と合わせ情報を共有している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調管理を行っている。変化があった場合は、看護師に報告、相談して指示を仰いでいる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、医療機関との十分な連携が取れるように努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した方やこれから終末期を迎えるであろう方に対しての対応は今後も課題であり、早い段階からの話し合いが必要であろうと考えている。	契約時に「できること」「できないこと」を説明している。家族の意向を再確認しながら話し合う時間を設け、対応を検討していく体制を整えることが必要と考えている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議で研修を行っているが、実践力はまだ経験値が足りないため、定期的に行う必要がある。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。	災害時における地域の協力体制は不可欠と考え、今後事業所訓練へ参加をしてもらう予定である。年に2回行う訓練では、通報や初期消火などを実施している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉での抑制について学び、声掛けには充分注意している。スタッフ同士でより意識していきたい。	利用者が描いたアートセラピーの絵をひとつひとつ額に入れ、「作品」として飾ってあることから尊重の気持ちが感じられる。少しでも笑顔を多く引き出せるよう言葉のバリエーションを増やすことを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を導き出したり汲み取れるよう努めている。自分で何かを決められるような機会を多くしていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの過ごし方を把握し、利用者様の希望を優先した援助に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類の提供をし、ご自分で選んでいただいている。また美容師に来ていただいたり美容院へ出掛ける機会を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳や片付けをスタッフと一緒にやっている。時には調理も手伝っていただいている。	手作りのランチョンマットにご飯・味噌汁の他、主菜・副菜2品が彩り豊かに並び、職員お手製の漬物が利用者の食欲を満たしている。外食に行ったり出前を取るなど、食事を楽しむ機会を増やしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いて、水分や食事の1日の摂取量を記録し、確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々の状態に応じた口腔ケアを実施している。義歯の洗浄やうがい薬も合わせて清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合った排泄パターンや間隔を把握し、自立支援を目指している。	「なるべくトイレでの排泄」ができるよう誘導している。排便についても牛乳やヨーグルトの摂取と運動により、薬で促していたが不要になった例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩などの運動と、牛乳やヨーグルトを摂っていただき、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	仲の良い方同士での入浴や、苦手な方でも気持ちよく入っていただけるよう支援している。曜日や時間は特に決めずに行っている。	1人では拒否をする利用者も仲の良い人と一緒に入浴することでスムーズに浴室へ足を運んでいる。入浴は1日おきが基本だが希望があれば毎日入れる。入浴剤を好む利用者もいる。冬至にはゆず湯を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	習慣や体調に合わせて、環境を整備している。眠れない方には付き添って対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルにて薬の内容が把握できるように整理している。変更は申し送りにて徹底している。状態に変化があれば、すぐに報告する体制がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの能力や生活歴に応じた役割を持つよう促している。楽しみや気分転換になるきっかけを多く持つように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中はいつでも屋外へ出ることが出来る。外食や買物に出掛ける機会がある。ご家族や地域の方へ協力を御願いし、より行動範囲を広げられるよう努めていく。	おおよそ月に1回は外食に行き、気分転換を兼ねて楽しんでいる。天気のいい日には散歩に出かけ自然を満喫したり、山菜取りをするなど地域ならではの外出をしている。買い物に行ったり図書館へ本を借りに行く利用者もいる。紅葉狩りなどドライブも随時行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金庫にて一括管理しているが、使う希望には対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけられる。お礼の手紙を書いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事や外出した時の写真を飾ったり、作成した作品を掲示している。	利用者の描いた絵や習字を多数飾り、眺めながら会話を楽しむことができる。食事の前に歌う歌も季節ごとに変え、四季を感じられるようにしている。また花を飾ることで華やかな空間作りができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方同士で過ごす空間を設けてあります。大声や笑い声に反応される方の場合には、位置や距離、声の大きさや高さに注意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り使い慣れた身の回りの物をお持ちいただき、安心できる空間にさせていただきよう御願います。	花の好きな方は随所に飾り、花に囲まれた空間を作っている。じゅうたんを敷き、テーブルと椅子を置きくつろげるようにしたり、TV・時計・仏壇・たんすなどを自由に持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事を多く見付け、安全を確保した上で自らが力を活かせるよう、個別に工夫している。		